祝福の秘訣　　子ども祝福式　2026 年 11 月 8 日

ヨハネ 15 章 5 節

日本では、昔から子どもたちの健やかな成長を願う独特の風習がありますが、教会は、神様からの祝福を祈る「子ども祝福式」が毎年 11 月の初めに行われています。教会では世の中のノウハウとは全く違った、神様と共にある祝福を祈ります。子どもが元気に成長する、という物理的な成長を願うだけではなく、精神的・霊的な成長を重んじています。それはイエス様の元に導かれることを意味しており、それが祝福の秘訣であります。

21世紀、どんなに世の中が変化しようと、いつの時代においても、子どもたちをイエス様の元に導くことは世界中の教会の大きな使命です。ですから私たちの教会のみならず、殆どの教会では特別に「教会学校」というものを設けています。また私たちの教会では教会付属の其枝幼稚園が併設されており、子どもたちは毎日イエス様の御言葉をお聞きながら祝福の内に元気に過ごしています。このように教会学校に集っている子どもたち、また幼稚園に通っている子どもたちを、私たちの使命として大切に育ててゆく役割があります。その事は大きな喜びと希望であり、また、私たち自身も子どもたちと一緒に成長させて頂いているともいえます。

イエス様に繋がる

さて、本日の与えられた御言葉は、先ほど読まれたように「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」(ヨハネ 15:5)です。

「繋がる」という言葉がポイントとなります。この世は様々なものに繋がっています。インターネット、携帯電話等で人との繋がりを求め、知らない間に悪の道へと引き込まれてゆくことをニュース等で目の当たりにしています。聖書では、変わることのない神の愛、イエス様に繋がりなさいと語っています。私たちの罪のために十字架で死んでくだったイエス様と結び付くときに、私たちの中にある罪から救われ、本当に正しいもの、真実なものを知ることができるようになるからです。その繋がりをぶどうの木と枝の譬えで記されています。

ぶどうの枝が幹につながっているのは一時的なことではなく、繋がり続けているから実を結ぶことができるのです。そのことを通して、イエス様と人が繋がることを教えています。「繋がる」＝「留まる」と同じ語源で、留まる(μ ε ί ν α τ ε)」とは、単に存在し続けることではなく、意識的・継続的な結びつきを意味しています。ですので、信仰は一時的な感動ではなく、日々の中でイエス様の御言葉に根差し、そこから栄養(命)を受け取る持続的な関係性が大切な事です。

手入れが必要

ぶどうの枝が幹に繋がって豊かな実を結ぶように、人がイエス様と繋がり続けるならば、人生に豊かな実りがあると宣言してくださっています。その実とはどのようなものかというと、「愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制」です(ガラテヤ 5:22)。因みにその反対は「姦淫、わいせつ、好色、 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、 21 ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのもの」(5:19―20)

実を結ぶには手入れが必要です。ぶどうの枝は放って置くと地面にさがり、ほこりをかぶったり、水に濡れたままになって、実を結ばなくなると言われています。またぶどうはあまりに茂り過ぎると、光が入ってこなくなり大きくて甘く、おいしい実をならせることができないので、刈り込みによって余分なものを取り除かないとならないそうです。このように実を結ぶためには、刈込や手を入れをしなくてはならないのです。イエス様はそれを「手入れをなさる」という言葉で表わしています。

私たちの人生ももっと美味しくて多くの実を結ばせるために、神様は手入れをなさいます。神様がもっとより良いものを与えたいと思われる時には、私たちは痛い思いをすることもあるでしょう。時には自分では良いと思っているものを捨てるよう言われることがあります。能力や賜物、地位や名誉、財産でしょうか、もしかして自分では「これぞ！」と思っているものを刈り取られるかもしれません。しかし、その根底には、その実がもっと豊かに実るように、私たちに期待して手入れをしてくださっていることを心に留めてゆきたいです。

さてこれから後、子どもたちの上に、心を合わせて神の祝福を祈ります。しかし、子どもたちの上に祝福を祈求めるならば、何よりもまず、大人である私たちが、子どもたちにとっての祝福となることを求めて参りたいと思います。そのためには、まず私たちが神と共に生きる生活、神に祈り、神を礼拝する生活をしっかりと築いて参りたいです。改めて私たち大人も子どもたちと同じように祝福に与りましょう。